

「Nexsanは、期待以上のものを私たちに提供してくれました」と、Lowe氏は言います。「Nexsanを購入した時、私たちは、アーカイビングや大容量ストレージのことしか考えていませんでした。しかし、そのパフォーマンスに感銘を受け、今ではOracleデータベースのような本番データにもNexsanを使用しています。おそらくこれが、Nexsanストレージシステムの最高の隠れた秘密でしょう。ただのアーカイブや大容量ストレージではないのです」

**PETER LOWE**  
CENTRALISED IT SERVICES MANAGER,  
WORCESTERSHIRE HEALTH IT SERVICES

#### 結果

「Nexsanは、期待以上のものを私たちに提供してくれました」と、Lowe氏は言います。「Nexsanを購入した時、私たちは、アーカイビングや大容量ストレージのことしか考えていませんでした。しかし、そのパフォーマンスに感銘を受け、今ではOracleデータベースのような本番データにもNexsanを使用しています。おそらくこれが、Nexsanストレージシステムの最高の隠れた秘密でしょう。ただのアーカイブや大容量ストレージではないのです」

「このストレージシステムは、詳細な設定ができるユーザーフレンドリなGUIを備え、構成も使いやすくなっています。いずれにしても、Nexsanが勝るのは性能、特にSASで装置を接続した場合ですが、加えて、信頼性と密度の点もすぐれています」最後に、Lowe氏は次のように締めくくっています。「Nexsanをご存知ない方には、Webサイトの情報をご覧ください。ことをお勧めします。きっといい情報が手に入るでしょう」

## ヘルスグループ、高密度ストレージを採用してデジタル医療画像の増大に対応

約14,000人のユーザーと100万人の患者を抱える英国ウースターシャーのナショナル医療サービスでは、患者データのデジタル化に伴い、ストレージ需要が絶え間なく増え続けるという課題に直面しています。この課題に対応するために、簡単で高速な、信頼性の高いNexsanのストレージによるストレージ仮想化構想が採用されました。

#### Nexsanについて

Nexsanは1999年以来、海外エンタープライズ市場で10年以上にわたり、世界中で33,000システム以上、11,000社以上のお客様の導入実績を持つ、先進のディスクベースおよびハイブリッドストレージブランドです。2013年より、イメーションの事業ポートフォリオに加わりました。Nexsanストレージシステムは、仮想化、クラウド化によりデータストレージ市場が高成長する分野に向けて、高密度、低消費電力、低コストなど優れた特長を持つ信頼性の高い製品です。イメーションは今後も、世界中に広がるソリューションプロバイダ、VAR、システムインテグレータのネットワークを通じてNexsan製品を提供していきます。

- (Imation) (Nexsan) (Nexsanロゴ) は、Imation社の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名等は各社の登録商標または商標です。
- このカタログに掲載した製品は全てオープン価格です。
- 仕様、価格、サービスは予告なく変更することがあります。

イメーション株式会社  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル11F  
<http://www.imation.co.jp>

2013年9月発行

お問合せ先

**NCLC**

エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社  
<http://www.nclc.co.jp>  
〒150-6027 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号  
恵比寿ガーデンプレイスタワー27階  
電話:03-5447-8512 E-mail:storage@nclc.co.jp

CASE STUDY

### お客様の概要

Worcestershire Health IT Service (WHITS) は共有ITセンターで、プライマリケア、メンタルヘルス、急性期病院システムを含む欧州ナショナル医療サービス (NHS) に属するすべての組織に対してサービスを提供しています。

WHITSの中央ITサービスマネージャーであるPeter Lowe氏は、250台のサーバーに接続され、そのうちの約60%が仮想化された400TBのストレージを管理しています。「ウースターシャー社のNHSコンピュータ上のすべてのユーザーが私たちのシステムを使っていますが、そのストレージの大部分がNexsanです。私たちは、およそ百万人の患者を擁していますが、増え続けるデータに対応するための拡張性をNexsanが提供してくれているのです」と、Lowe氏は説明します。

WHITSは、医療のITニーズに対応するためには、サーバー、システム、およびIT管理が極めて重要であると認識していますが、それには強固で管理しやすいストレージインフラが必要になります。WHITSにとっての大きな課題の1つは、医療によるデータ保管方法の変化、すなわちアナログからデジタルへの変化に対応することです。このことは、医療画像については特に重要で、これは、追加ディスク容量のニーズに常に追いついていかななくてはならないということの意味しています。例えば、医師が骨折の全容を見るためには、さまざまな角度からの高解像度レントゲン写真が何枚も必要で、何テラバイトもの新しいデータが毎年増えていくこととなります。しかも、これは放射線部門だけの話です。糖尿病性網膜症などの他部門でも、診断に高解像度のデジタル画像を使用するようになってきており、これらの画像とデータも安全に保持しなければなりません。そのため、容量と耐久性を手に入れるために、WHITSでは、Nexsanを使って、ウースターシャーの医療記録をバックアップしています。

### ビジネスチャレンジ

Lowe氏によると、WHITSユーザーは、より多くのストレージ容量とともに、より良いパフォーマンスとより高い信頼性も常に求めています。WHITSのデータは、複製されたバックアップデータとともに、Nexsanデュアルコントローラ装置を通じてマルチパスでクラスタ化されます。「人々の話題にのぼるのは『99.999%』で、それは私たちにとっても同じです。常時99.999%の可用性が欲しいのです」と、Lowe氏は言います。「達成するのはとても難しい。しかし、医療は24時間365日必要であり、どの臨床システムにもダウンタイムがあってはなりません。目指すのは、永続的な可用性なのです」

同氏によると、費用対効果の高いソリューションの必要性とより高いパフォーマンスの需要は、しばしば相反する要求で、シンプルな答えはなかなか見つかりません。多くの組織が、パフォーマンスニーズに対応するためにエンタープライズクラスの製品に高額を費やすか、または、予算には合っているが他の要件には対応しない安価な製品に落ち着くか、いずれの場合も「ストレージギャップ」に入り込んでしまうのです。

「安心できる高密度ストレージと信頼できるサポートを得るためにNexsanを導入してみましよう。すぐれたエンタープライズクラスのベンダ製品に匹敵する、期待以上のパフォーマンスに驚かれることでしょう。」

**PETER LOWE**  
CENTRALISED IT SERVICES MANAGER,  
WORCESTERSHIRE HEALTH IT SERVICES

「新しいストレージプラットフォームを比較するときにはいつも、コスト、信頼性、パフォーマンスの3つの主要要素に注目します」と、Lowe氏は言います。「これらの要素は互いに異なる方向へと引っ張る三角形になっています。どれか2つを最大化すると3つ目が弱くなります。その点、Nexsanは最も安価というわけではありませんが、それほど高価というわけでもなく、サポートや信頼性は極めてすぐれています。安心できる高密度ストレージと信頼できるサポートを得るためにNexsanを導入してみましょう。すぐれたエンタープライズクラスのベンダ製品に匹敵する、期待以上のパフォーマンスに驚かれることでしょう。」

また、Lowe氏によると、24時間365日の医療需要に対応するには、Nexsanのすぐれた技術サポートは絶対不可欠です。「サポート体制がNexsanほど整っていない他のサプライヤーの製品も試したことがありますが、彼らの製品は、その後、二度と購入していません」

### ソリューション

WHITSが初めてNexsanに紹介されたのはおよそ9年前、リセラー再販業者Cristie Data社からで、NexsanおよびCristie Data社双方から、WHITS社のストレージシステムで何ができるのかについて十分な説明を受けました。Cristie Data社は、ウースターシャーNHSトラストのインフラにおける主要サプライヤーで、プライマリストレージ、バックアップ、アーカイブ、障害復旧に対応してきました。同社は、コンサルティングに基づくアプローチによって、価格、パフォーマンス、信頼性に最も注目しつつ、顧客に対し、常に適切なアプリケーションに対応する適切な技術を選択・推奨しています。

WHITSのシステムはかつて、サーバーベースのローカルディスクのみを使用していたため、ネットワークベースのストレージへの移行が大きな課題となった時期がありました。長年にわたって、WHITSは、Nexsan Beast (\*)とBoy SANストレージ製品を採用しており、最近では、最新のNexsan EシリーズからNexsan E18も導入しています。

WHITSは、ストレージの上にソフトウェアレイヤーを追加し、物理的ボリュームから変換したブロックを必要に応じてプールしたり論理ボリュームに割り当てたりすることのできる仮想化ソリューションを設計しました。これによって、抽象化の層が生じ、実質的に、一連のストレージシステムを、異種のものまでも含めて、パフォーマンス階層を備えた単一の巨大なストレージ装置へと変えることができたのです。

WHITSのITチームは、FalconStorソフトウェアを使ってテストし、最終的には、期待を裏切る他のサプライヤーのストレージを切り捨てました。WHITSは今、大容量ストレージとしての目的以外にもNexsanを使用し始め、その成果に満足しています。「NexsanにSASを用いてホストと接続すると、ファイバーチャネルに匹敵するパフォーマンスとなります。私たちは、Nexsan E18を、プライマリストレージとして使い始めました」と、Lowe氏は説明します。

(\*)訳注  
現行EシリーズはBeastの後継機種です。上記事例の構成を現在はEシリーズとして同様にご提供することが可能です。



CASESTUDY

CASESTUDY